

# 令和2年度第1回地方独立行政法人北九州市立病院機構評価委員会 議事概要

- 1 開催日時 令和2年7月17日（金） 13：30～14：20
- 2 開催場所 総合保健福祉センター（アシスト21） 2階 講堂
- 3 出席者 柳井委員長、穴井委員、石橋委員、小松委員、松木委員、吉田委員  
（欠席者：田中委員、渡邊委員）
- 4 議 事 （1）委員長の選任について  
（2）令和元年度業務実績評価について

## 5 会議要旨

### （1）委員長の選任について

- ・委員互選により柳井委員が委員長に選任された。

### （2）令和元年度業務実績評価について

#### ○事務局

- ・資料2-1について説明
- ・委員からの意見を紹介

感染症医療の項目について、今回の新型コロナへの対応は、ウィルスの性格が不明の中で現場がおそらく右往左往しながらも奮闘して現在の感染抑制状態を引き出して来ています。

よって機構が、通常の感染症対策のみでなく新型コロナという未知の病原体に向かって働いたことを「年度計画を大幅に上回った」と自己評価したものですから、ここはやはり5と評価するのが妥当と思います。

#### ○委員長

感染症医療の評価の意見につきまして、事務局から補足説明はありますか。

#### ○事務局

新型コロナウイルス感染症対策以外につきましては、年度計画の取組みを順調に実施しており、評価「3」相当ではないかと考えています。

次に、新型コロナウイルス感染症対策につきましては、繰り返しの部分があるかもしれませんが、まずコロナウイルス感染症は本年1月に感染法上の指定感染症に指定され、本市では今年の1月30日から検査を実施し、市内で入院する陽性患者は3月23日に生じている状況です。このような状況におきまして、市立医療センターは第二種感染症指定医療機関として、本市において中心的な役割を果たしている

認識しています。また、八幡病院も複数の協力医療機関とともに3月から外来での検査を実施していただいている状況です。一方で、市としては、感染症医療では運営負担金を機構のみに1億3千万円を拠出している。こういった状況を踏まえまして、他の医療機関から市立病院機構にさらなる対応が求められているということで、評価を「4」としているところです。

○委員長

よく対応しているのですが、1億3千万円分に見合っているかという観点でいうと、その中身を少し精査する必要があるだろうということかと思えます。

それでは、この点も含めまして、質問、ご意見等をお伺いしたいと思いますが、散発的にあちこちでやりますと議論のまとまりがなくなりますので、まず評価が変化していないところはこれでよろしいですかと確認して、それ以降、3つの点で見たいと思います。

1つが、機構と市の評価が異なる小項目です。特に評価を下げているものについて、議論する必要があるだろうと思えます。

それから、評価が「2」の低い評価になっているものです。これは、変化がなくとも議論する必要があります。逆にいえば、評価の変化がないものとして、例えば「4」とか「3」のレベルのものは時間を割いても仕方がないかと考えています。もちろん、上げたほうが良いというご意見があれば、議論していくことになります。

そして、3つ目としては、全体を通して質問、それから確認事項、内容の正確を期すということかと思えます。

それでは、まず4つの大項目がありますけれども、それぞれ確認をしていくことでよろしいでしょうか。

(一同「異議なし」)

○委員長

それでは、まず大項目の「第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する」事項で、評価が一致しているものについて、上げたほうが良いとか、下げたほうが良いといったご意見はありますでしょうか。

(2)や(3)、「2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実」、「3 医療の質の確保」は評価「3」ですけれども、よろしいですか。

(一同「異議なし」)

○委員長

それでは、評価が下がったものについて、お話をしていきたいと思えます。

まず、一番の山場は、「(1) 感染症医療」です。委員の意見では、評価「5」に

すべきだという話ですけれども、率直なご意見をお伺いしたいと思います。

○委員

市のご説明にもありましたように、ニュース等で市立医療センターが頑張っていることを重々承知はしているのですが、年度の区切り、3月までの状況で考えますと、評価結果については、市の評価で特に異存はございません。

資料に対して申しますと、看護に関して、看護体制の見直しに着手であるとか、養成施設への派遣をしたであるとかが項目として書かれていますが、資料2-2を見ましても、具体的な内容が分かりづらかったので、もう少し資料の中に具体的にどのように見直して、その結果がどうであったかというあたりまで記載していただくと、さらに分かりやすいと思いました。

○委員長

ありがとうございました。他の委員は、いかがでしょうか。

○委員

感染症対策の評価に関しては、季節が重要なポイントであったのですけれども、例えば、私がコロナ以外の患者の紹介をしても、そのころ看護体制の見直しがあって病棟がうまく働かないとおっしゃっていました。コロナの病棟に看護師さんが取られている状況であったのだらうと考えるのですけれども、あやふやな季節で評価するのは、はっきり言って私としても非常に難しい。

まだ落ち着いていない状況ですけれども、看護体制を変えて、急な入院にも備えることはどうしても必要だったと思うし、やむを得ないと思うので、それを評価に結びつけるのは、何か心が痛む感じがします。この感染症に迅速な対応をなさってくださったことはすごく評価していいと思います。感染症の年度計画とかを考えて評価「4」にしているのですけれども、私の気持ちとしては評価「5」でもいいかなという感じです。

それからもう1つ、救急対応のことですけれども、市立八幡病院は救急体制を整えて、すごくいいレベルでやっていらっしゃると思います。子育ての評価をしているNPOがあって、北九州市は子育てを自慢できる都市第1位ですけれども、救急体制が整っているというのが一番大きな評価項目の中の1つなのです。そういうことを考えたら、この内科系の循環器科を整備する必要があるかもしれませんけれども、「2」の評価でいいのかどうかというのは、これもよく分かりません。

○委員長

ありがとうございます。(1)と(3)が意見の焦点になると思いますので、ここは時間を取りたいと思います。

○委員

市の評価が「5」より下がったというところで、私もこれは少し理解できないと思ったところです。私も福祉施設を持っていて、非常に大変な努力というか、エネルギーがかかりました。職員も非常にストレスフルになった状態があって、それを、評価「4」とか「5」とか、「5」ではない「4」だよと言っていいのかなという感じが正直あります。市も病院側も、本当に見えない敵と戦うみたいな感じで、そのストレスというのはかなり想像を絶するものがあったのではないかと思います。

私も職員470名、利用者1,000名を抱える中で、これに対して万全にやれることを全てやろうということで、職員と一丸となってやってただけに、そこを「4」とか「5」の評価を考えるとというのが、少し不自然な感じがします。本来、感染症医療としては順調にやっていた。それにプラスアルファになったということを考えてたときに、評価「4」にしていいのかというのは、非常に疑問を感じています。

○委員長

現場の気持ちをくみ取ると、ちょっとどうかということです。

○委員

専門外なので、私はよく分からないのですが、あえて伺いたいのは、このコロナに対して、実際に患者さんが3月23日に入ってきたと言われたのですけれども、その対応のために、前段階でどのくらいの負荷がかかって、どういう対応をされたかというのを、今のコメントでは把握できないので、その辺りの現状を踏まえた上で評価「5」か「4」かを判断すべきではないかと思いました。コロナ以外の部分については、市の評価と機構の評価と相違はあまりないと思うので、コロナの部分について、実態を伺ってみたいと思います。

○委員長

先ほどの市の説明ですと、3月末までの年度の評価という形で、実際にコロナ発生であるとか、非常に繁忙になった時期というのは今年度ということになりますので、若干そこに時間的にずれがあるという話でありました。急にその対応ができるわけではなくて下準備が多分にある。そういったところも含めて、少し実態が分かればというお話だったかと思います。

○委員

感染症医療について、今回の新型コロナの対応に関しましては、医師会として、医師会員全員が非常に高い評価をしています。医療センター、市立八幡病院の医師、スタッフの皆様に非常に感謝をしているところであります。市の評価の下がった原因の1つは収支だと思いますけれども、この収支というのはコロナの医療をしていて、まずプラスになることはあり得ません。必ずマイナスになります。マイナスに

なるのは政策医療としても、ある程度は仕方がないのかなという考えにしています。それよりも、医療センター、市立八幡病院の医師、スタッフの頑張りに対して、私としては「5」の評価をしたいと考えています。

#### ○委員長

各委員のコメントを集約すると、評価「5」にすべきという話が出ていたと思います。評価は、この評価書であるとか、大学も教員評価をやっておりますけれども、客観的に評価するという目的、モチベーションを上げるという目的、正すべきは正すという目的があると思います。そういった点でいうと、評価「4」というのはいかがなものでしょうかという意見が、相次いであったのかなという気はしております。コロナへの対応がかなり全面に出て、マスコミ等にも出たのは今年度というところは、確かにそのとおりだと思いますけれども、昨年度について、何かもう少し付加的な情報というのはいないですか。

#### ○市立病院機構

機構のほうから回答させていただきます。コロナに関しましては、実際に、北九州市に多くの患者さんが出る前から、北九州市は医師会を中心に感染症対策のネットワークといいますか、対応が非常にしっかりと整備されていまして、事前にいろいろな形で協議がされていまして、もちろん、医療センター、市立八幡病院は、中心的な役割を担うべき病院ということで参画させていただきました。今年度までに準備したこととしましては、さまざまな資材、機器の不足の部分がありますので、そういったものを全て点検した上で、必要なものについて市等をお願いしたり、あるいは自力で調達してきました。

また、コロナの患者さんがお越しになると、完全に動線を分けないといけません。したがって、そのためにはそれまで使っている病棟・病床を完全にコロナ専用にしなないといけないので、病棟の再編成、使っている病床を使えないようにするとか、看護スタッフを中心に相当な人員の再配置、それに対して心のケアも必要であるということで、それぞれチームをつくることをしましたし、その時点で手術件数を半減いたしました。

コロナの対応に対して、きちんと対応するには、日常の診療業務を犠牲にしないとできないということで、例えば呼吸器内科の外来、感染症科の外来は閉じましたし、それから手術も半減して、重症の厳しい手術に対しましては、他の医療機関にお願いする形にしました。コロナ対策を万全にするために、経営のことよりもここはコロナ対策だろうということで、いろいろな内部調整をしてきたというのが、今年度までの取り組みです。それ以降、それをベースに実際に患者さんを診療してきたというのが、これまでのところでは。

○委員長

クラスターが発生して、それに対応するためには、下準備がないと無理なことだとは思いますが、年度は跨ぐとはいえ、昨年度はそういった対応をされていたということが、今のお話でよく分かりました。

この市の評価について、当委員会がどういう意見を出すかということと、それが決定なるかどうかということですが、委員会として修正が妥当だという判断をして修正の提案があった場合には、それを受け、市においてまた検討するということになります。ですから、この委員会の結果がそのままストレートに最終結果というわけではないということだと思いますが、当委員会としては意見を付けることになるかと思えます。

それで、一つ一つ処理をしていかなければならないと思えますので、私が委員の皆さん、市立病院機構の理事長の話を伺った限りでは、それからまた市に、今後の医療政策の将来を考えたときに、あまりモチベーションを下げるような評価は、いかがなものかなというところがあります。これはやはり、その努力をきちんと受け止めて評価を「5」に上げるべきということを委員会の意見としたいと思えますが、この点についていかがでしょうか。異論等はありませんか。よろしいでしょうか。

(一同「異議なし」)

○委員長

それでは、ここは修正をお願いしたいということで、結論付けたいと思えます。

それともう一つ、評価を下げたものとしては、「(3) 小児救急を含む救急医療」の件ですけれども、これについては、先ほどご意見を頂きましたが、他のご意見等はございませんでしょうか。

○委員

八幡病院は、特に小児救急はものすごく頑張っていると思っています。うちの孫もよくあそこで救急にかかっています。ただ、問題は、ここは救命救急センターですので、例えば心筋梗塞の患者さん、脳卒中の患者さん、これを診られない状況というのは、やはり市民として困る状態ではないかと思えます。ですから、この循環器、脳外科、ここら辺の診療体制を早くきちんと確立していただくのが急務だと考えています。今の状況では、市の評価の「2」は仕方ない気がしています。

○委員

資料2-2の26ページの関連指標の救急車応需率は小児だけではなくて、他の大人のことも含めてのデータですか。

○事務局

両方です。

○委員

両方ですね。分かりました。

○委員長

他はいかがでしょうか。医師の確保は、決まっている指標ですので、その内容のガバナンスは、やはりきちんとお願いしたいというところは思っています。救急医療については、救急関係の医師の採用も、きちんと年度ごとに計画どおりお願いしたいところですので、これはやはり「2」でしようがないかなというところであります。

委員の皆さん、いかがでしょうか。

(一同「異議なし」)

○委員長

それでは、このままということにしたいと思えます。大項目1については、他は評価「3」で、先ほど承認をもらっていますので終了にしたいと思えます。

それでは、次は大項目2「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置」です。今回の評価につきましては、全体の評価が「C」になったということです。大項目2と大項目3の財務内容はかなり連動していますので、大項目2と大項目3のどちらかがきちんと目標達成できれば、全体評価もかなり上がってくるのだらうと思えます。特に、財務内容が焦点になるのだらうと思えます。

そこで、大項目2ですが、まずは評価が変わってないところについて、これは変えるべきだということはいかがでしょうか。特に、機構側も「3」、市も「3」と同じになっているケースです。何かご意見はございますでしょうか。

また、大項目4のところ、「看護専門学校運営について」もご意見等ございませんでしょうか。

○委員

看護専門学校のほうは、北九州市への就職率も高いですし、学生さんを集めるご努力も大変なされてきたと思えます。あえて申し上げるとするならば、看護専門学校は教育部門ですので、もともと収入が得やすい部門ではないというのは重々承知しているのですが、学費等を見ますと、他の看護専門学校に比べると安価なので、もう少し学費を上げると経営的な部分への貢献はできるかなと感じました。学費を上げるとは、いろいろなリスクを伴いますので、一概にそこだけを焦点化して言うことはできないかと思えますが、その辺りのことを少し感じた次第です。

それから、資料の中に看護専門学校の将来構想のようなことを検討することも書かれていました。どのような方向性に行くのかについて、評価とは関係なく、情報を提供できるようであれば教えていただきたいと感じた次第です。

#### ○市立病院機構

学費の件につきましては、この近隣では一番低くなっています。市内の各看護学校とも学費の面について意見交換を行った上で、極端に低い金額にならないように、その期その期で学費の額について検討させていただいています。学生の負担を増やしていくことはかなり慎重な検討が必要ですので、奨学金も含めて周りの学校との均衡を図りながら、しっかり考えていきたいと思えます。

それから、将来構想につきましては、独立行政法人化する時に看護学校の取り扱いも議論されたのですが、当面の間、機構の中で学校を存続するということが決まっています。中期計画の期間が5年ありますので、この1、2年の学生の状況ですとか、就職率とか、あるいは就職後の定着率ですとか、その辺を見ながら、将来的に看護学校を機構としてどのように運営していくのかを、この期間内にご提案させていただければと思っています。

#### ○市立病院機構

付け加えますと、非常に優秀な学生に集まってきてもらって、幸いなことに過去3年間、国家試験合格率100%を維持しています。幸いなことに、大半が北九州市内において看護業務に就いてくれています。したがって、今後とも、少なくとも現状を維持する上では、授業料等の増額を見ながらも、必ず北九州で看護業務に就いてもらうということを日々メッセージとして伝えながらやっているところです。

#### ○委員長

若者の地元定着という目的に寄与しているということです。ありがとうございます。

大項目2の1の「(1) 病床利用率の向上」の評価が機構も市も評価「2」ですが、これでよろしいでしょうか。市のコメントとしては、利用率、診療単価について、予算と乖離がかなり生じていることから、十分実施できていないと判断して、評価「2」としたということです。数字のとおりと思いますが、これはよろしいですか。

(一同「異議なし」)

#### ○委員長

次に大項目3について、評価「3」で変わっていない部分について、何かご意見ありますか。

「1 財政基盤の安定」のアとか、「2 運営負担金のあり方」は「3」ですけれ

ども、よろしいでしょうか。

(一同「異議なし」)

○委員長

それでは、大項目3の1の「イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する」です。これについては、数字のとおりになっていますけれども、一生懸命取り組まれたとは思いますが、目標を下回る結果となり、評価「2」となったということです。コロナの影響もあったのですが、今年度はさらに落ち込む可能性があるということです。なかなか厳しいかと思えますけれども、この点につきまして、何かコメントはございますでしょうか。

一つ確認ですけれども、中期目標の数字ですが、これは最終年度に向けて少しずつ上がっていく形ではなくて、最終年度の数字との比較で毎年度比較している形でしょうか。

○事務局

中期目標の数字と比較するところと、毎年度予算とか各年度の数字と比較していく両方の側面があったと思います。評価報告書の中では、ベンチマークとしまして5年度を提示させていただいているので、こうした比較にさせていただいています。

○委員長

中期計画もいろいろな集計があって、毎年度、少しずつ目標値を上げながら最終年度に到達するやり方もありますし、ゴールだけはっきり明示してそこに近づけていくやり方もあるかと思えます。評価としては、毎年度の調節の中に位置付けてやるのが本当はやりやすいとは思いますが。評価もそちらのほうが、努力していることは目に見えやすいと思えます。でないと、毎年度ずっと目標に到達できていない値が5年間続くこともあり得ます。次回は少しそこを考えられればいいかと思えます。

では、評価「2」が付いておりますが、これでよろしいですか。

○委員

病床利用率の件ですけれども、市立八幡がレスパイトケアを始めました。小児のレスパイトケアは、北九州市では医療的ケア児は110人くらいだと思います。そのうち人工呼吸器を付けている子が2割くらいと思うのですけれども、そういう子の在宅時の介護負担の軽減のために、空いた病床を利用してレスパイトケアをという考えだったと思います。病床利用率をそういう形で上げていくのも1つの方法ではないかと考えます。全部の病床のうち、ある程度の割合を親のために、家族のためにそういうところに使えるものは使って、病床利用率を上げるのもいいのではないかと私は思っています。

## ○委員長

病床の有効活用という面ですが、その辺りはいかがでしょうか。

## ○市立病院機構

レスパイトケアの件は、市のこども家庭局とか、福岡県とも協力して取り組むということで、計画に盛り込ませていただいています。ただ、まだ実績自体が何百人という数ではありませんので、病床利用率にレスパイトケアの数字を反映させるには、まだ実績が乏しいと考えています。八幡病院は当然、小児もきちんと病床を確保して体制を構築していますので、実績に応じて反映していきたいと思っています。

## ○委員

病床利用率のことで、私が資料から読み取れませんでしたので、お尋ねしたいと思います。病床利用率を上げることと、経営状況を上げるためには、1人当たりの診療点数をどれくらい上げられるかとの関係性があると想像します。病床利用率が少し下がったり、目標値を達成していないところは、新規入院患者数の問題なのか、平均在院日数の問題なのか、あるいはベッドのコントロールなのかを教えてください。

## ○市立病院機構

その点に関しましては、まず昨年度の全体的な傾向として、診療単価は上昇傾向にありました。それから平均在院日数も短縮傾向にありました。その中で、病床利用率は少ない。現在はベッドコントロールにつきましては専門の部署を設けて、より効率的な運用に変更いたしましたけれども、昨年度は必ずしもそれが十分に機能していなかったというのが反省点としてあります。

もう1つは、トータルとして新規患者数が予想を若干下回ってしまった。つまり、平均在院日数を短くしたにもかかわらず、さほど患者さんが増えなかったのでトータルとしてベッドの利用率が減りました。その点での調整は、現在は年に3、4回くらい経営会議を行っていきまして、各診療科の部長並びにその周辺クラスと意見交換をしながら、そこがきちんといくように、そして特に新規患者さんがお越しになるような形で、良い医療提供できるようにということで、一步一步進めているところです。反省点を申し上げますと、昨年度がちょうど始まったところですが、実績が伴うには至っていません。

もう1つ申し上げますと、やはり医療のあり方が少し変わってきたような気持ちがあります。ちなみに、それぞれ機構以外の各病院の実力が付いてきた中で、また北九州市の人口も減ってきた中で、トータルのベッド数というものの見直しは必要と思っています。そんな中、医療センターでも将来のベッド減少に向けた方針を決めましたし、また八幡病院でもその方針を進めています。今後は中期的な戦略で、市民のために必要とする医療を提供しながらも無駄のない病院のスケール、そして

周りの医療機関とのあつれきがない診療のあり方を模索していかねばならないと  
思っているところです。

○委員長

ありがとうございました。

ご意見を伺いましたが、この大項目3の1のイとウにつきましては評価「2」で  
よろしいということですね。

(一同「異議なし」)

○委員長

ありがとうございます。

それでは、大項目4、最後です。こちらはまず両方とも評価「3」ということで、  
先ほども併せてお伺いしましたけれども、特に問題がなければ最後の市政への協力の  
ところです。ここが、市の評価が下がっています。しかし、下がってはいますけ  
れども、評価「4」は結構いい水準ではあると思いますが、この辺りはいかがでし  
ょうか。病院機構から、何かご意見とか、思いとかありますか。

○市立病院機構

ここを評価「5」にさせていただいたのは、1つはコロナの感染症対策について、  
機構としては最大限努力をしたということとほぼ同義で「5」とさせていただき  
ました。もう1つは、基本的には市との協力ということでききますと、特に保健福  
祉局との協力になるのですが、例えばレスパイトの話ですとか、消防との救急医療  
の話ですとか、病院機構としては市の各部局ともいろいろ個別に事業の協力をしな  
がらやっていますので、特に今回はコロナについて現場が非常に頑張ったというこ  
とで「5」とさせていただきましたので、市政への協力も「5」で提出させていた  
だいています。基本的には、「4」というのも非常に高い評価だとは思っています。  
ここは、市のご判断にお任せしたいと思っています。

○委員長

内容としてはコロナですけれども、感染症の項目は病院そのものが努力している  
ところを評価するという話で、こちらは市の立場から見てどうかというところだ  
ので、視点は少し違うのです。市の要求している水準との幅との評価となっている  
かと思います。これについて、コメントはございますか。

○委員

市の評価のコメントで書いてありますコロナの協力医療機関等から市立病院機  
構へさらなる対応が求められていると書いてありますけれども、これは具体的には

どういう対応を求めていたのですか。

○事務局

先ほどから議論もありましたけれども、コロナの関係で言えば、もともと市の医師会と17の協力病院の会議の中で、コロナとどう立ち向かっていくかという議論を積み重ねてきています。当然、医療センターは中核的な役割を果たしていただいているのですけれども、私を含め保健福祉局の幹部が協力病院の院長先生に訪問していくと、やはり市立病院は運営負担金をもらっているのだから、対応していただくのは当然だし、我々としてはお金をもらってない中でこれだけの対応をしているので、もっと市立病院には役割を果たしてもらいたいという期待と要望を含めて、それなりの病院からお話を頂いています。我々としては、当然、高い評価をさせていただいているのですけれども、他の病院からそういう意見もあるということを踏まえたときに、評価「5」というのは大幅な上回りなので、そこはやや上回っているとさせていただいたところです。

○委員

17の協力医療機関は機能分担、役割分担をきちっとしないといけないと思うのですけれども、今後は国とか県で重点医療機関を指定することになっています。そうすると役割分担がはっきりして、協力病院からの不満も少なくなるのではないかと考えます。私としては非常に頑張っていると思うのですけれども、他の病院からしたら、確かにそういう意見も出るだろうとも思います。

○委員長

他はいかがでしょうか。

○委員

市政の協力で災害時への対応があります。市立八幡病院は、災害時の対応のシミュレーションをやって、トレーニングもしていると記載がありました。最近の異常気象を見たら、きっちりと役割を、この病院でこう対応して、全体の病院でこのように協力していく体制をもう一回知らしめることも要るのではないかという気がするので、そこをよろしくお願ひしたいということで、評価「5」でもいいのですけれども、今後に期待という意味で「4」と私は考えています。

○委員長

他はよろしいでしょうか。

それでは、長時間にわたりご議論いただきまして大変ありがとうございました。

全体として総括させていただきますと、機構と市で概ね評価は一致していたのではないかと、この委員会として同意はされていると思います。そして、評価の相違

する部分につきましても、データ等きちんとご提示されて、それを踏まえた形で評価されているのではないかということで、それについても同意されていると思います。ただし、大項目1の感染症医療につきましても、今日初めて得た情報として、事前準備等かなりのご努力を図られていた。それが今年度のクラスターの封じ込めに寄与したところを評価しまして、当委員会としては評価「5」のままにしたいと考えています。この結果を市において持って帰っていただきまして、ご検討いただければと思います。

それでは、全体を以上のとおりの評価としたいと思います。本委員会としては、一部修正ということが妥当と考えています。評価委員会の意見として提出しますので、市において検討をお願いしたいと思います。

本日の協議内容につきましては取りまとめを行いまして、評価結果報告書の2ページの評価委員会意見指摘等へ反映されることとなります。その内容につきましては、あらためて委員会を開催せずに、議事録等を踏まえた案をご確認いただくことで決めたいと考えています。委員の皆様よろしいでしょうか。

(一同「異議なし」)

#### ○委員長

ありがとうございます。

それでは、お集まりいただいたの討議はこれにて終了といたします。このあとの進行は、事務局をお願いいたします。

#### ○事務局

柳井委員長、ありがとうございました。

委員の皆様には、業務実績評価についてご審議いただきましてありがとうございました。本日のご審議を踏まえ、評価委員会の意見指摘等については委員長とご相談させていただき、議事録とともに委員の皆様を確認させていただきますので、よろしくお願ひします。

また、取りまとめました評価結果報告書につきましては、市立病院機構へ通知するとともに市議会へ報告させていただきます。評価結果報告書についてお集まりいただいたの委員会開催は今年度は本日のみとなります。予定されている議題は今のところございませんが、審議事項が生じた場合にはご連絡させていただきたいと考えています。今後とも、ご指導賜りますようよろしくお願ひします。

これにて終了とさせていただきます。皆様、本日はどうもありがとうございました。